

令和元年度 描画部門実績報告

1. 今年度事業の報告及び反省

○今年度の児童文化展描画部門では最後の展示・撤去まで滞りなく実施出来た。審査会では審査員を半数以上変えて次年度への引継を行った。審査の方法は例年と同じく各学校から出品された作品を一同に集め、複数の審査員により各学年30点を選出する方法で行った。各部会の負担が軽減されることや複数の審査員の協議により審査を行うため、選出の傾向が偏りにくいことなどが利点である。以下に審査講評を抜粋する。

【小学校低学年】

- ・生活画は、いきいきとした動きと丁寧な着彩で主題が明確になるように描かれていた。

【小学校高学年】

- ・風景画は、構図や色、タッチを工夫し、遠近感、明暗による立体感がよく表されていた。

【中学1年生】

- ・題材の選び方に課題がある。もっと主題を追求するとよい。全体的に色遣いが薄い印象があった。

【中学2年生】

- ・どうしても時間的に厳しい面がある。今後は風景画以外の取り扱いを含め、部会でも対策を検討していく。

【中学3年生】

- ・驚くほどの描き込みが見られた。光の捉え方が上手く、色のきれいな作品が多かった。

○審査会はスムーズに進んだ。点検作業も協力して手際よく行うことができた。氏名間違いもほとんどなかったの確認の電話などを入れずに済んだ。(あった分はその場で確認できた)

○提出してもらう名簿は、審査会でデータをまとめてネームカードとして印刷しているが、今年度はデータの形をシンプルにしたので、各支部やまとめる際の負担が軽減された。

▲名簿データが圧縮されていて、審査会の時に開けないものがあった。(解凍ソフトが入っている別のパソコンで開いた)

▲今回学童スケッチ展の締切が早く、選外の作品は審査会の時、なるべく持って帰ってもらったが、撤去の時、所在不明の作品が単にその場にはないのか、持って帰ってもらったものなのか分からなくなった。(最終的には所在が判明した)

2. 次年度への指向

◇名簿データを作成していただく際に次の3つをお願いする。

①学校番号を必ず入れてもらう。

②作品の確認をする際に、学校ごとに1年～6年まで(中学なら1年～3年)が一つのシートの中に並んでいるデータが必要なので、各支部で学年ごとにまとめ直すなどの作業はしないようにしてもらう。各支部では、各学校から出されたデータを一つのフォルダにまとめてもらうだけでよい。(その方が各支部もまとめる側もどちらも楽である)

③データは圧縮しないで送ってもらう。(そこまで大きなデータではないはずである)

3. これからの児童文化行事の(各部門行事)のあり方について

中学校で1年から3年まで風景画制作を行うのは、時数の問題で非常に厳しい面がある。これまでの流れで、天草の中学校は児童文化展に向けて特に風景画に力を入れてきたが、今後は要綱の範囲内で、様々な題材に取り組む事ができるように、図美部会でも検討を重ねていく。今年度でも自画像や幾何学模様を使った抽象画なども審査し入賞させている。ちなみに要項では「絵画に限る。(人物画、風景画、生活画、静物画、想像画などの題材は自由)」となっている。